

はいはいする時期です

一人座りや「はいはい」を始める頃になると、お子さんの生活空間がぐんと広がります。両手を使えるようになり、目についたものに対して手と口を使ってふれたり、なめたり、つかんだりし始めます。人見知りが始まるのもこの頃からです。けれど、見慣れた人や興味をもったものには自分から近づいていって、積極的にかかわりをもとうとします。お子さんが見せる興味を受け入れて、その興味の先を一緒に楽しんでみてください。

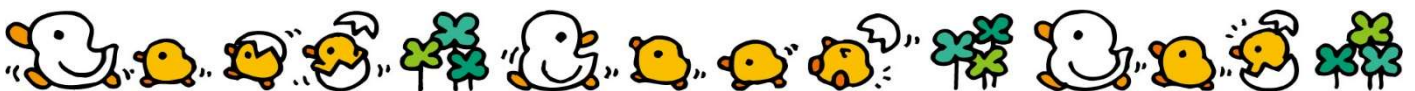
☑チェック
してみよう

ご家庭ではこんなことに気をつけましょう。

はいはいを始めると、行動範囲が一気に拡大！
また、なんでも口に入れてしまう時期でもあります。

(生後5か月を過ぎると、赤ちゃんはなんでも口に入れるようになります。)

- 子どものまわりの床、手が届きそうな場所には、子どもが飲み込めるサイズのもの（直径4cm以下・トイレトペーパーの芯の内側よりも小さいもの）や、タバコ、吸いがらなどは置かないで！
(窒息の危険・飲み込んだものが体内でひっかかり炎症を起こす危険)
- テーブルのふちなど、子どもの手が届くところには熱いものを置かないこと！
(やけどの危険)
- 年上のお子さんがお母さんのまねをして、赤ちゃんに「豆」や「いくら」などをあげてしまい、窒息が起こることもあります。サイズが小さい食べ物は食事の直前にテーブルへ運びましょう。
- 子どもが入ったら危ない場所（キッチン・階段など）には、柵を取り付けて近寄ることを避けましょう。



【 保育所で気をつけていること 】

- 子どもがのみ込めるサイズ「直径4cm奥行5cm以下」のおもちゃや文房具、その他生活用品は、手が届かないところに置いています。
- 洗剤や薬品は、手が届かない高い棚の中に保管しています。
- 子どもが入ったら危ないところには、柵や鍵を取り付けています。
- 身体の安定度が増して自然と「おすわり」を始めるようになって、不安定な時期は、後ろにクッションを置き、倒れて頭をぶつけることを防いでいます。



《 はいはいの重要性 》

赤ちゃんの成長過程は・・・

手足のバタバタ → 寝返り → お座り → はいはい → つかまり立ち → ひとり歩き

という一つ一つの段階をすべて十分にした成長が理想的。

「はいはい」は、**バランス感覚**や**反射神経**、**腕の力**を鍛えるだけでなく、**脳の発達**にも関係しています。「はいはい」の期間がしっかりと長いほうが、腕の力が鍛えられて「パッと手が出て体を支える」という行動ができ、転んだ時に顔を打ってしまうことを避けられます。また、はいはいしながらいろいろな物をさわったり、拾い上げたりするので、**手指の繊細な動きも習得**できます。はいはいすることによって、手足からの十分な運動刺激が脳の発達を促し、**言語能力や集中力が高くなる**と言われています。赤ちゃんは、歩けないからはいはいしているのではなく、本能的に はいはいしながら脳を発達させていくと言われています。「はいはい」は大事な発達過程ですね。

《ママと一緒に「はいはい」のおいかっこ》

「まてまて～」と声をかけながら、はいはいでおいかけっこをします。布団の下に丸めたタオルをおくなどして、はいはいで乗り越える場所を作ると楽しさアップ！



※ぶつかりそうなものは、あらかじめ片づけるなど安全面に注意して遊びましょう。

こんな遊びもあるよ！

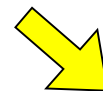
お家で不要になった物も、おもちゃになりますよ。

ミルクの空き缶やガムテープの芯など転がるものを準備しましょう。

あとは転がすだけ！ 転がるおもちゃを「はいはい」で追いかけて遊びます。



ミルク缶は、片面に布ガムテープをはれば、太鼓になっちゃうよ！
パチは、ラップの芯です



～うつぶせをいやがる子、おすわりを好む子には～

機嫌のよい時に腹ばいの姿勢で遊ぶ経験をさせましょう。

胸の下に折りたたんだバスタオルなどを敷いて腹ばいの姿勢をサポート。

上体が安定します。目を合わせ、言葉をかけながら、好きなおもちゃを動かして興味を引き出しましょう！



布を使ってあそぼう！！

ものの変化や動きに興味が出てくるころなので、スカーフなどの布を使った遊びがおすすめです！

○投げてふわりと落としたり、いないいない ばあ！と顔を隠したり、赤ちゃんの上にふわりとかぶせたり・・・

その動きや形の変化を赤ちゃんはおもしろがります。

※鼻や口をふさいで窒息などの事故につながらないように、

遊んだあとは片づけましょう。



○ティッシュの空き箱やミルクの空き缶、大人の手の中にスカーフを入れて、

赤ちゃんに引き出してもらっても楽しいですよ♪